熊野のライアーゲーム

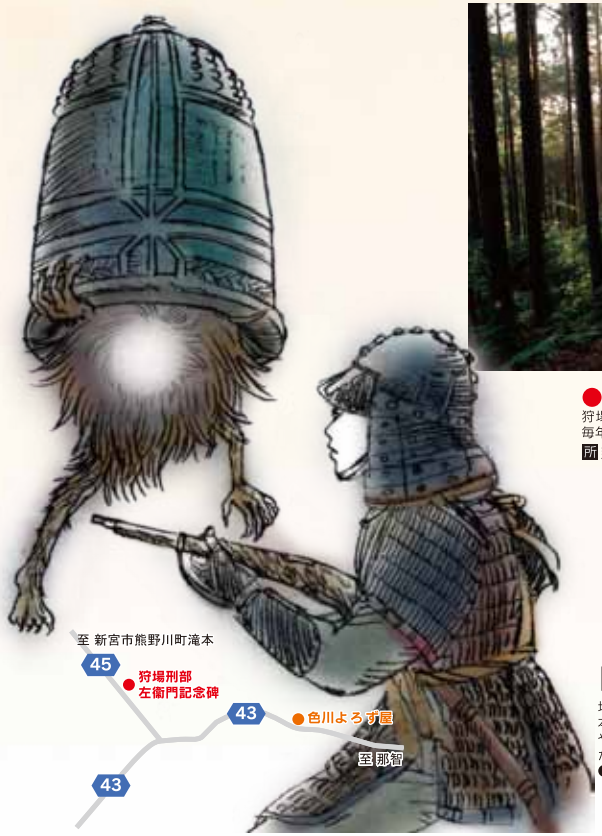
一つだたら

村人から恐れられていた一つだたら。狩場刑部左衛門は退治しようと撃つものの、常に釣鐘を被っているため撃ち殺せません。

「次こそは」と思って家へ帰り弾を作っていると、どこからか猫が来て火の端で居眠りをし、その日の弾を作り終えると猫はいなくなりました。それが数日続き、九十九発目を作った時「これで終わり」と言うとまた猫はいなくなりました。それからこっそり鍋の脚で百発目の念仏弾を作りました。

実はこの猫こそが一つだたら。そこで再び刑部が戦いを挑み九十九発を撃った後「わしの負けだ」と言い、油断して釣鐘から出てきた一つだたらを念仏弾で撃ち、退治しました。

参考　熊野本宮の民話　和歌山民話の会編集



●狩場刑部左衛門記念碑
狩場刑部左衛門の武勇が今も讃えられ、毎年11月1日に例祭が行われる。
所 那智勝浦町樫原地内

「色川茶」
地元色川地域で栽培されていて、本州で最も早く摘まれる緑茶。穏やかな気候風土が育んだまろやかな風味が特徴。
●色川よろず屋
所 那智勝浦町口色川742-2
☎0735-56-0500

寄り道ぐるめ

熊野山中や熊野古道に現れる妖怪

究極の肉食系美女

肉吸い

肉吸いは夜の山道で美しい娘に化けて現れ、人に近づき「火を貸して下さい。」と言います。うっかり提灯を貸してしまうと火が消されてしまい、暗闇でうろたえているところを襲われ、虫が樹液を吸うように体内の肉だけを吸い取られてしまいます。そうならないため、肉吸いと分かれば、火縄を振りまわせばよいと言われています。

また、ある猟師が山中で化け物に出会い、鉄砲玉を撃ちつけたところ、その化け物は骨と皮だけで、肉が全くなかったと言われています。これが肉吸いの正体なのでしょう。

参考　紀州おばけ話　和田寛著　名著出版